



能登の雇用創出にも貢献する能登工場

AIの演算を支える高性能サーバーで 中小・中堅企業の成長を支援

日々、目覚ましい進化を続けるAI技術。その基盤を支えるのが高速な演算処理を可能にするGPUサーバーだ。ブロックバリューは独自開発の高性能なGPUサーバーで、AIの活用で出遅れが目立つ日本の中小・中堅企業の持続的成長を支援する。

国外のITインフラに依存 日本のIT市場に危機感

ブロックバリューは2022年に設立されたばかりのスタートアップ。代表取締役で総合商社出身の大西基文氏のキャリアはユニークだ。

「商社が得意とする間接販売と共に、メーカーによる直接販売の時代が来ると確信し、1997年に伊藤忠商事を退職してパソコン直販のデルコンピュータにジョインしました」

デルではオンラインストアによる直販体制を拡充。その後はアスクルやアマゾンジャパンの立ち上げフェーズにも携わり、セキュリティソフトウエアベンダーの個人投資家兼社

長を経て、バイスプレジデントとしてトレンドマイクロに入社。さらにクロックスタジャパンでも代表を担い

直営店舗を拡大する。ジョンソン・エンド・ジョンソンではコンタクトレンズ部門の営業責任者として流通の強化に加え、オンライン・リアル店舗の直営体制を整備した。多彩なキャリアを持つ大西氏がブロックバリューへ参画するきっかけとなったのは新型コロナウイルスの罹患だった。

「一度立ち止まって考える時間ができました。その中で、これからの30年を展望する上で欠かせない分野を『AI』『仮想現実』『ブロックチェーン』の3つに絞りました。この3つの理解を深めるために米国マサチューセッツ工科大学やカリフォル

ニア大学バークレー校の専門講座で学び直しました」

そこで大西氏が実感したのがこれらの技術を支える高性能サーバーの必要性。それと同時に受講者に日本人が大西氏を含め1〜2人という現実から、日本の立ち遅れにも危機感を感じたという。

「世界のクラウドコンピューティング市場は100兆円規模と言われ、今や電気やガスと同じ産業を支えるインフラですが、日本は2兆円程度。世界で高性能サーバーによるデータ処理がITインフラとして整備が進む中で、国外に依存せず日本発・日本国内でのインフラ整備を進めることは、新しいビジネスや技術、そして雇用創出の環境が整い、日本の持

続的成長につながるはずだ」

その思いから大西氏は、GPUサーバーの製造・販売を行うブロックバリューに参画。2023年に石川県志賀原発近くの工業団地にある日立製作所の精密機械工場を居抜きで取得し、信頼性、可用性、保守性に優れた独自開発のGPUサーバー「Win Supreme G11」の国内製造を開始した。

十分な電力を賄える受電設備を備え、精密機械の製造に必要な高い堅牢性も兼ね備える同工場は、データセンターとしても最適な条件が整っている。この設備と同社のGPUサーバーの性能の両方を生かす形で、現在、パートナー企業によって同社のGPUサーバーが稼働するAIデータセンターが運営されている。同社はメーカーの枠を超え、パートナー企業と共に日本のITインフラの整備にも動き出している。

高性能サーバーの計算能力が 中小・中堅企業の成長を支援

データを保管する従来のデータセンターとは違い、AIデータセンターは、データ保管は行わず、計算能

力を提供するもの。そこから提供さ

れる計算能力は、AIだけではなく、動画解析や顔認証などの画像認識、機械翻訳などの音声認識、検索エンジン、自動運転、産業オートメーションなど幅広い分野で活用され、今後の可能性が大いに期待されている。

「大量データを処理できる計算能力を求める大手企業であればGAF Aなどの海外のAIデータセンターを利用できますが、中小・中堅企業はデータ量やコスト面で利用は限定的なのが現状。そういった中小・中堅企業がGPUサーバーの計算能力を活用し持続的成長を目指すための小回りの利いたITインフラ提供を目指したいと考えています」

とはいえ、同社のGPUサーバーによる高い計算能力があっても、その能力を使いこなし、新しいビジネスや技術、ソリューションを生み出す人材の育成が重要な課題となる。

「そのためにも地方の人材も含め、人材育成にも注力していきます。当社のITインフラの整備と地方の人材育成で地域格差が解消されれば、地域の中小・中堅企業の持続的成長と地方創生につながります」

ブロックバリュー
代表取締役 ● おおにし もとふみ

大西基文

設立 ● 2022年8月 資本金 ● 1億円 本社 ● 東京都港区
事業内容 ● GPUサーバーの製造・販売
<https://blockvalue.co.jp/>



計算能力の高いITインフラと人材育成で中小・中堅企業を支援するブロックバリュー。大西氏は会社の将来について次のように展望する。

「将来的にはメーカーという立場にこだわらず、国境に関係なく利用可能な拠点を増やしていき、分散処理によって次世代のAI開発をリードし、人類共通の課題解決を目指します。当社のGPUサーバーの計算能力によるテクノロジーと人間の共同作業によって、持続可能で倫理的な社会を実現し、世界の不平等を緩和しながら常に革新を追求していきます」

K